

20. 天然林の施業（エゾマツ、トドマツを主とした）

1 試験担当者

北海道支場長：寺崎康正

支場全研究室

2 試験目的

エゾマツ、トドマツを主とする天然林の施業については、林業開拓初期の択伐施業時代から今日にいたるまで、それぞれの時代に即応した研究が行なわれてきたが、近年いわゆる漸伐施業が進展するにつれて、これと天然林の更新および取り扱い方法との関連性の点に、未解決の問題が多いことが明らかになってきたので、これらの点について研究をすすめる、天然林取り扱い方法を確立する。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

1. 土壌消毒区と無処理区においてトドマツを、発芽床と表層土壌の動態に注目し、 A_0 層と A_1 層のかき起し処理を組合せてトドマツをそれぞれ播種した。また、稚苗消失区からリゾクトニヤ菌を検出した。
2. 伐採による稚苗の消長を追及するため、夕張天然林にベルトを設けて伐採前の調査およびトドマツ人工林内の天然生稚樹の消長と明るさの調査のため調査区を設けて調査中である。
3. 空知天然林に保残区と帯状皆伐区を設け、番号を付し、胸高直径、立木位置の測定と地形調査、単木ごとの樹型級区分と活力級調査、樹冠投影図の作成、樹幹解析（トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ 31本）を行なった。
4. 空知天然林で分類された多くの林型と虫害発生の状態をしらべ、かなり高い関連を確認した。また草木の樹型と虫害についても相関を確認した。
5. エゾマツ大径木ではヤツバキクイ——コキクイの寄生型が、中小径木ではエゾキクイ、コキクイ類の型がみられた。

4 昭和44年度の試験計画

1. 人工林播種試験地における稚苗の発生消長の調査とその原因究明、発芽阻害の菌学的検討
2. 除草剤による林床処理と更新の関係および伐採にともなう植生遷移
3. 天然林稚樹の生育環境の総合的解析
4. 林分型ごとの収穫と成長

- 5 伐採による各種被害調査
- 6 伐採後の残存木の生理状況の変化と害虫加害との関係